

# 木材流通の

# スプレッドリスト



## ■木材流通の推移

国産材の流通量は、昭和42年をピークに長らく低迷状態が続きました。平成14年を底値に徐々に国産材の生産は増加しますが、それでも現在の国産材自給率は4割程度です。経済成長に逆行して下がった丸太価格は、国内需要だけでなく外材の輸入に大きく左右され、現在、1立方メートルの取引価格は1万3000円前後となっています。令和3年から4年まで続いた「ウッドショック」は、外材の輸入量の減少によって発生した木材バブルでした。

## ■木材流通の現在

コロナ禍の収束で外材輸入も戻り、また、国内の住宅等の建築需要の減少も相まって、国内の丸太流通はあまり良くない状況です。製材倉庫や丸

太土場は満杯で荷動きが滞っており、3割から5割程度の減産とする製材工場や合板工場もある中、国内各地にアンテナを張りながら営業活動を行っている。

今年白鷹産材については、新潟岩船港から船便で広島、岐阜、熊本まで輸送する計画です。商社の強みを活かし、最大限に木の価値を出していくよう心がけています。

また、木材の高値販売には採材(玉切り)技術が非常に重要となりますので、伐採現場で実際に木を見て対応しています。バイオマスで燃やすのは最後の手段です。極力加工し、付加価値を高め、山元に

お金が残る商売を心掛けています。

## ■白鷹町の木材・森林の印象

白鷹町の木材は長くて太い木が多く、量が取れる森林が多いと感じます。ただ、太くなりすぎているため、製材用ではなく単価の落ちる合板用に回す割合が多くなるのが残念です。

今は「50年前の答え合わせ」をしている状況とも言えます。木材を見ることで森林の持つ特徴がわかる。この経験は次世代に繋ぐためにも、収穫(伐採)によるデータを活かすことができればいいと思います。

## ■からくり

環境意識の高まりから、全国的に国産材利用に対する意識が高まっています。国産材市場が消費者から評価を受けることで、取引価格の回復につながるといふ期待を持っています。

森林は、地域の貴重な財産です。環境面や生活面においても、もっと多くの人に目を向けていただきたい。また、産業としての林業・木材産業については、生産の川上から利用する川下までしっかりと連携していくことが必要です。そのためには私たち流通事業者は頑張っていきたいと思えます。

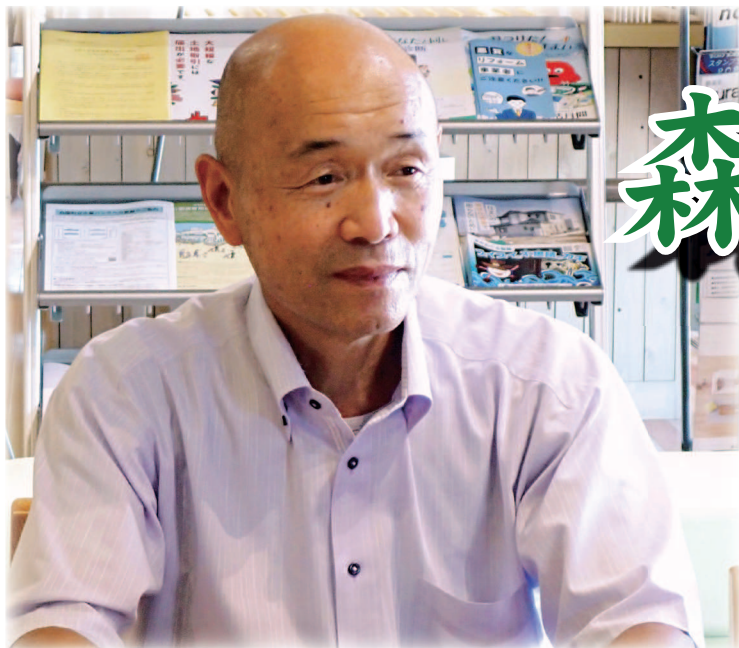


こがわ しゅうじ  
古川 秀二さん

物林株式会社 国産材事業推進部東京営業室長・会津事務所所長。北海道旭川市出身、千葉県在住。北は北海道旭川から南は広島に至るまで、国内における木材産業と流通のエキスパート。国内外の針葉樹・広葉樹・銘木を取り扱う。大阪における新事業の立ち上げのほか、広島、会津の事務所の立ち上げに関わる。

### 【物林株式会社】

国内外に拠点を有する森林(もり)と緑の総合商社(林業・木材流通、公園管理、建築等)まちづくり複合施設建設時より白鷹町との関わりがあり、令和5年4月に林業の振興と地域の活性化に向け、白鷹町と連携協定を締結。



# もり 森林と共に

## 町林業の

# サポーター

つちや ゆうきち  
土屋 勇吉さん

認可地縁団体鮎貝自彊会副理事長、西置賜ふるさと森林組合理事。栃窪出身、箕和田在住。栃窪の林業を家業とする家庭に生まれ、山に囲まれて育つ。55歳までは自衛隊に所属し、現在は自動車教習所で運転技術を指導するかわら、森林・林業関連組織における重責を担う。

平成27年7月～令和5年6月  
：認可地縁団体鮎貝自彊会 理事  
令和5年7月～  
：認可地縁団体鮎貝自彊会 副理事長  
令和3年5月～  
：西置賜ふるさと森林組合 理事

### ■山への思い

私は、小さい頃から山に囲まれて育ち、家業が林業であつたこともあり、人一倍森林に関心を持っています。

森林は、水、炭や薪等の燃料、食料の供給、二酸化炭素の吸収など、私たちの生活に多様な恵みを与えてくれています。そして、未来の子孫のためにご先祖様たちが残してくれた想いの結晶でもありません。そのためにも、伐期を迎えた木は伐採して利用し、再び将来のために植えて、循環させていくべきだと思っています。

森林の歴史や文化を学ぶとともに実際に体験することも

### 重要と思っています。

例えば、火を焚くことには、薪を割ったり、火おこし用の杉葉を集めたり、薪の並べ方や手順はどうするかなど、さまざまな生活の知恵があり、生きていくための大きな学びがあります。

現代は、大人も子どももこのような体験の機会が少なく思うので、こうした活動も行っていきたいですね。

### ■将来への思い

白鷹町の人工林率は県内一位でその多くはスギですが、栄養分や水分の少ない土地ではスギの生育が悪く、その一方でアカマツやカラマツ等の松類は生育が良いという特徴があります。そのため、これまでのスギ一辺倒の山づくりから、その土地に合った樹種を植える「適地適木」が必要と感じています。

今年アカマツの伐採も行われています。夏場のスギの価格は低くなるため、夏場はアカマツにしていくなど、木材の流通も視野に入れた森林施業も今後は重要になると思われます。

また、西山には落葉樹がた

くさんあり、春には一早く芽吹き、鮮やかな緑を見る事ができます。適地適木による森林づくりが、町の新たな四季の景観をつくり、より町民が誇れる森林になると考えています。

### ■きょうりゅう

いま、町の森林・林業はこれまでにはない大きな動きが出てきており、私も大変うれしく感じています。この流れが今後も続き、町民が全国に誇れる町の森林を作っていくよう、自らが橋渡し役となり頑張っていきたいと思います。

